

平成23年
8月20日発行

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。



「桜川」は門前を北(写真右)から南(写真左)へ流れていました

江戸時代、「大門」の前に 人々の生活を守る 水路が流れていた

第20号の表紙は
芝大門
エリアの話題です



増上寺の門前に「桜川」が流れ、橋が架かっているのがわかります
(「東都名所 芝神明増上寺全図」歌川広重)



芝地区を代表する増上寺。江戸時代、その総門である「大門」の前には、排水溝の役割を担った「桜川」という水路が流れていました。

この水路は、付近の町屋から排出される「下水」の落とし口として使われ、南にある将監橋に向かい、「金杉川」(古川)に流入しました。当時は下水といっても、し尿は別ですし、家庭から出る排水もそれほど汚れていませんでしたから、直接川に流しても問題はなかったのです。

「七軒町」「浜松町」「神明町」「神明門前」の4町(現在の芝大門1丁目)では、「下水組合」を設立してこの下水を管理していました。自分たちのことは自分たち

でやるという精神が生きていました。寛政5年(1793)4月に、幕府による工事で大門通りに土手が築かれ、下水も拡幅されると、それまでは普請奉行(土木工事を担当していた役所)が行っていた下水の修理や浚い(掃除)も、この組合で行うよう申し渡されました。以来、4町の下水組合により大切に保全・管理されたこの下水は、当時の人々の暮らしを支えた重要な施設だったことなのでしょう。

都市化が進み、その機能がなくなってきた桜川は暗渠(地下水路)となり、現在のまちの姿になっています。今でも将監橋の下では、暗渠となった桜川が古川

に注ぎ込んでいるそうです。江戸の町に思いをはせ、芝大門の散策をしてみませんか。知らず知らずのうちに「桜川」の上を歩いているかもしれませんね。

●参考文献：東京都下水道局発行「ニュース東京の下水道(No.221)」ミツカン水の文化センター発行「水の文化(18号)」

芝大神宮で、 江戸町人の暮らしをしのぶ…

都営浅草線・大江戸線大門駅から、芝神明商店街に入るとすぐ、左手に大きな鳥居が見えてきます。6年前に創建千年を迎えた由緒ある神社、芝大神宮です。かつては飯倉山(現在の芝公園あたり)に鎮座していたことから飯倉神明と称されましたが、徳川家の菩提寺、増上寺が現在地に移されたのに伴い、芝大門1丁目に遷座されたといわれています。

江戸時代、この芝大神宮が多くの参拝者でにぎわったその理由は…? ご存じの方は歴史に造詣の深い方と言えるでしょう。ヒントは鳥居、伊勢神宮を想起させる、すがすがしくも威厳あふれる神明鳥居にあります。芝大神宮の主祭神は天照大御神、豊受大神。伊勢神宮の内宮・外宮を祀ることから「関東のお伊勢さま」として親しまれてきたのです。旅行などままならない当時、「一生に一度はお伊勢参りに」と願う東北など関東以北の庶民の間で、人気を博しました。

また、芝大神宮といえば、「め組の喧嘩」の舞台としても知られています。文化2年(1805)2月、このあたり一帯をとり仕切っていた火消し「め組」の鷹と、江戸相撲の力士たちの境内での乱闘事件。講談や歌舞伎「神明恵和合取組」の題材



今年の「だたら祭り」は、静かに祭るいわゆる本祭時は、約千基もの神輿が渡御し、何千人もの担ぎ手の熱気にあふれる参道のにぎわいは必見(写真：芝大神宮撮影班)

となったこの喧嘩、「火事と喧嘩は江戸の華」とはいうものの死傷者を出す騒ぎだったようです。喧嘩の当事者、鷹や力士とともにお裁きが下ったのは、なんと「め組」の半鐘。半鐘が鳴り出したのがこの大喧嘩の発端とし、この半鐘に遠島を申しつけるという粋なはからいに、江戸庶民は喝采を送ったとか。ちなみに遠島にされていた半鐘は、明治になってから芝神明に戻され、大祭期間中には展示され、往時の勳進相撲のにぎわい、町火消しのいなせをしのぶよすがとなっています。

現代でも人気のランキング本ですが、江戸時代もさまざまなものがランク付けされ、ちょうど相撲番付のように印刷したものが流行しました。そのひとつ「江都自慢」という番付では、練馬大根や深大寺そば、谷中生姜とともに、「九月神明生姜」がランクイン。芝大神宮で、毎年9月に11日間に及んで行われる例大祭(日本一長く続く祭りとして、俗に「だたら祭り」と称されます)の期間中、境内には盛んに生姜の市が立ち、そのにぎわいぶりは歌川広重の錦絵にも描かれるほどでしたが、それが「九月神明生姜」がランク入りしたゆえんです。冬に備えて体を温める生姜を食べれば風邪をひかないという、いにしえびとの智慧がしのべられます。

(文 ■ 金田 明美 / 写真 ■ 町田 明夫)

info 芝大神宮
芝大門1-12-7
TEL 03-3431-4802



この4月より名誉宮司の跡を継いだ勝田博之現宮司に芝大神宮の由緒と名物を伺いました。テンポよく語る宮司のさわやかな話ぶりは江戸っ子そのもの



芝大神宮の力石。この石は、重さ50貫(約188kg)あり、明治時代に芝大神宮で力持ちの興行が行われた際、力持ち力士「金杉の藤吉」が片手で持ち上げたといわれています

心 芝地区の風景

芝大門でたった1軒の手作り豆腐屋さん

ビルの谷間に1軒の豆腐屋。今では芝大門で唯一の豆腐屋となった、紀伊国屋とうふ店です。創業は明治中期、現在の店主西岡善一郎さんが4代目となります。初代が和歌山県出身だったことから、この屋号になったそうです。

豆腐屋の朝は早いといいますが、西岡さんの一日も午前3時に始まります。豆腐作りにとりかかり、油揚げ・生揚げ(厚揚げ)・がんもどきを揚げ、午前10時にすべての作業が終わります。西岡さんの作った豆腐は、大豆の味をしっかりと感じるができます。これが代々受け継がれた味なのでしょう。

お客さんが来ると、店主が注文を聞いて水槽から豆腐を取り出す——その昔はよく見られた光景ですが、今ではそんなコマがほのほのとした気持ちにさせてくれます。

「こだわりは特にない」と静かに話す西岡さんですが、豆腐屋が少なくなっていく中で、今も昔ながらの手作り豆腐を守り続けていることは、すてきなこだわりではないでしょうか。



info 紀伊国屋とうふ店
芝大門1-2-4
TEL 03-3431-6061

終戦の日 特集

終戦を迎えるころ、東京は連日空襲を受け、大半が焼失しました。まさに焼け野原からの復興です。戦後66年目を迎える終戦の日「平和の尊さ」をもう一度考えたいと思います。

わが国の終戦の日は玉音放送のあった昭和20年(1945)8月15日です。戦死者は約310万人(歴代政府答弁)。私たちはその不幸な時代を乗り越えて、今日の日本を築き上げました。

平和への願い

第57回 こども平和まつり

都立芝公園にある『こども平和塔』は、昭和29年(1954)、太平洋戦争で犠牲になられた方々を慰め、世界の恒久平和を願う全国の小・中学校の児童・生徒の手によつ

てつくられました。この尊い精神をしのび、毎年7月末に「こども平和まつり」が開催されます。

今年は7月29日(金)に御成門小学校で、第57回「こども平和まつり」が開催されました。まつりの開催に先立ち、「こども平和塔」の清掃活動が、御成門小学校・御成門中学校の皆さんを中心に行われました。

「こども平和まつり」は2部構成で、第1部の「平和まつり」では三田中学校生徒会が

司会を務め、みんなで「こども平和塔の歌」を歌い、「こども平和宣言」を行いました。第2部の「平和コンサート」では御成門中学校生徒会が司会を務め、児童・生徒による和太鼓やシンフォニックプラス演奏、コーラスのほか、民族舞踊を通して外国児童との交歓も行われました。

次世代を担う子どもたちが平和の大切さを感じるよい機会となりました。



Info こども平和塔 芝公園3-2 都立芝公園内

あの頃、戦争があった

私は生きて帰れるかわからない… 戦地へ赴く前、疎開学童を慰問した思い出

戦時中、西久保八幡町で少年団の隊長を務め、軍隊に召集される前に疎開先の子どもたちを慰問したという経験を持つ曲谷さんにお話を伺いました。

西久保八幡町で少年団の団長を務める

私は西久保八幡町(現虎ノ門5丁目)で、生まれ育ちました。戦時中、この辺りには、歌、書道、俳句を楽しむ子ども会があり、中・高校生がその面倒を見ていました。その子ども会が次第に少年団となり、そこで軍隊教育もするようになりました。私はその少年団の隊長をしていました。戦争が苛烈を極め、東京に空襲が起ころうになると、子どもを守るため、学童疎開が始まりました。近くの鞆絵小学校や少年団の子どもの多くは栃木県の川治温泉に疎開しました。

戦地に赴く前のわずかな期間に慰問活動

昭和19年(1944)12月、軍隊に行くことが決まっていた私は、生きて帰れるかもわからないという思いから、戦地に行くまでのわずかの間に、疎開先に慰問に行くことを決めました。当時慶應義塾大学の学生だった私は、神谷町や西久保八幡町に住んでいた高校生や大学の友達を誘い、6人で慰問団を結成しました。疎開学童を引率していた先生は私の恩師でした。先生に慰問に行きたいと話をき出したところ、たいへん歓迎してくれました。

慰問に行く前に、現地子どもたちに見せる慰問劇を2つ用意し、6人で1週間くらい練習しました。道具や衣装はすべて手作りでした。リュックサックに舞台道具を詰め、アコーディオン等の楽器を背負い、入りきらないものは手に提げて…お米や子どもたちにあげるお菓子も持参して出発しました。

子どもたちのために即興で歌づくりも

今のように交通の便はよくなかったので、東武線で鬼怒川温泉へ行き、鬼怒川温泉からは重い荷物を持って、歩いて川治温泉に向かいました。体力には自信のある仲間たちと山道を歩くこと1時間ちょっと。到着すると、宿舎となっていた川治温泉ホテルで、みんなが私たち慰問団を喜んで迎えてくれました。

川治では、子どもたちと一緒に体操をしたり、岩登りをしたりしました。夕方、用意してきた慰問劇を見せると、子どもたちや先生はもちろんのこと、ホテルの皆さんも、楽しんでくれて、笑い声が絶えなかったですね。当時娯楽が少なかったぶん、余計に楽しかったのでしょう。

まがたに けんいち 曲谷 健一 さん 大正13年(1924)12月18日生まれ 86歳



曲谷さんは「ともえ疎開学童の歌」1番2番をすべて歌ってくださりました

「ともえ疎開学童の歌」 作詞:曲谷健一 作曲:高橋勲

1 川治よいと、 お国のために ここが僕らの疎開地だ 山あり谷あり、 空気が清いぞ がんばれがんばれ 鞆絵の友よ 行こうよ、 がっちり腕組んで

2 川治よいと、 勝ちぬくために 朝からきこえる掛声だ 谷間にひびくぞ、 にこにこ笑顔だ がんばれがんばれ 鞆絵の友よ 行こうよ、 がっちり肩組んで



2泊3日の滞在中に、即興で「ともえ疎開学童の歌」をつくりました。作詞は私で、作曲は音楽の得意な高橋君でした。みんなで大きな声で歌いました。今でも全部歌えますよ。 たった2泊3日でしたが、帰るときはお互いに別れを惜しみました。もう慰問に行くことはできないとわかっていたから。生きてまた会えるかもわかりませんでしたから。慰問から戻り年が明けると、私は戦地へと向かいました。

私自身は国を守るのはわれわれ若者しかいない、しょうがないと思っていましたが、小さい頃から大事に育てた我が子を戦場に送り出すという親の気持ちとはどれほどだったのでしょうか。今の若者たちには想像もできないでしょう。

今の若者たちにも知ってほしい日本の歴史

昭和20年(1945)9月10日、私はトタンを積んだ車に乗って虎ノ門に帰ってきました。虎ノ門3丁目あたりから新橋を見たら、愛宕町、西新橋、新橋…見渡す限り何にもありませんでした。全部焼けていました。周りに何もないので、高架だった山手線だけがはっきり見えました。

大学に復学し、2年半で卒業しましたが、卒業する頃には経済活動はほとんど元に戻っていませんでした。焼け野原もほとんどなくなってしまいました。たった2年半で、本当に活力がありました。

今の若者たちにも、こういった日本の歴史を知ってほしいですね。

背中に火のついた友達に水をかけたことも… 戦争はもういらない。みんな仲良くが一番

すずき はるお 鈴木 春男 さん 昭和7年(1932)3月13日生まれ 79歳



上を首都高速の高架が通る古川に架かる金杉橋。もともと漁師町だったこの地で生まれ育ち、12歳から漁に出ていたという鈴木さんに、この辺りの戦争当時の状況を伺いました。

空襲から船を守るために 父親と一緒に

以前ここは金杉川口町(現芝1丁目)といわれ、漁師がたくさんいて、古川には漁船が留まっていた。本芝(現芝4丁目)には雑魚場があって、戦時中も漁に出っていました。

空襲があったとき、私は小学6年でした。焼夷弾が自分の通っている竹芝小学校の辺りに落とされたかと思うと、風が強かったので火が巻き上がり、波のようにみるみる押し寄せてきました。火の勢いは衰えず、漁船の留まっている古川まで迫ってきたので、慌てて漁師をしていた父親と一緒に船のところまで行きました。船は漁師にとって大事なものです。燃えては困ると、火を避けるために船を出してはみたものの、押し寄せる風と火でなかなか思うように進みませんでした。なんとか燃えずにすみました。火の勢いはものすごかったですね。

空襲で燃える家々… 本当に戦争はひどいもの

この辺りの人の逃げ場所は、線路でした。土手のように少し高くなっていて、建物もなかったからです。私は、燃えている近所の家の消火をするために、バケツ2~3杯も入る大きな容器に水をいっぱいくんで、それを抱えて運びましたね。今考えると、ずいぶん重かっただろうなあと思います。でも、そのときは必死だったので、そんなことを考えなかったですよ。そのとき、逃げて逃げて、必死に助けを求めに来た友達がありました。その背中には火がついていました。急いで水をかけて、火を消してやりました。そのときのことを思い出すと、本当に戦争はひどいものだなあと感じます。

運もあるのでしょうね、小さなお川に逃げて助かった人もいました。あとで聞いた話ですが、川に逃げて亡くなった人も多く、水上消防署の仕事をしてた兄は、毎日川でたくさんの遺体の引き上げ作業を行っていたそうです。特に下町のほうの川はひどかったみたいです。

戦後は困っている人を みんなで助けた

空襲後の4月、私は中学に入学できず、学徒動員で、軍需工場でも武器を生産していました。幸いにも自宅は燃えずにすんだので、両親は芝新堀町(現芝2丁目)から家が焼けて逃げてきた知り合いを世話していました。芝新堀町のほうは、空襲で被害が大きかったので、住む家が無くなってしまった人も多かったと聞きます。あの頃は、困っている人がいたら、みんなで助けたものです。

戦後になっても、家が防空壕に住んでいた人もいました。焼け野原で、辺り一面何もなかったもので、持ち主でもない人が勝手に他人の土地に小屋を建てて住んで、もめていることもありました。みんな生きていくのに、精一杯でした。

この辺は、駐留軍の車両の通り道にもなりましたが、たまに車からチョコレートと落ちてくれて…子どもたちは喜んでそれを食べていました。食糧不足の時代でしたが、漁師の家だったので、私たちは食べるものにはそれほど困りませんでした。よその家に比べたら、苦労は少なかったかもしれせんね。親には感謝しています。たまにご飯を外に置いておくと、誰かに持っていかれることがありました。困っている人が持っていたのでしょうか。でも、それをとがめることもなかったですよ。

空襲は、今振り返ってもつらいことばかりを思い出させます。もう戦争はいらないね。「みんな仲良く」(これは鈴木さんがよく家族に言うフレーズのように)がいいです。



焼け野原からの復興 会社を支えたステンレス厨房

むらた せいいち 村田 精一 さん 昭和3年(1928)11月10日生まれ 82歳



明治40年(1907)新橋4丁目で板金加工所として創業し、戦後その技術力でステンレス厨房器具の製作を手がけ、現在に至るまで数多くのホテル、レストラン、学校、病院などの厨房設計・施工を行ってきた「株式会社 村幸」の相談役 村田さんにお話を伺いました。

戦時中は新橋に残る

私は新橋で生まれ、桜田小学校に通い、この地で育ちました。戦時中も疎開せずに、新橋に残りましたが、家族の中には、疎開した人もいました。私の家族・親族は東京の人ばかりで、田舎がなかったため、家にいたお手伝いさんの郷里だった長野県松本市にある浅間温泉に疎開させてもらっていたのです。

会社は、戦時中は軍部の指定工場となり、軍需品を生産していましたが、一方で、当社の技術を生かして、船舶や兵舎の厨房設備器具の製造も始めました。

昭和20年(1945)3月10日、鉄翼をかぶって自宅の物干し台に上ると、本所・深川方面が真っ赤に燃えているのが見えました。こちらに1機のB29が飛んできたと思ったら、この一角にも焼夷弾が落とされ、家はあつという間に焼けてしまいました。火の手のないところへ必死で逃げました。私の自宅は新橋の中でも、空襲を受けた最初の地域でしたので、まだ家が残っている同級生たちが、ありがたいことに片づけの手伝いに来てくれました。しかし、その後の空襲で、その同級生たちの家もみんな焼けてしまいました。この辺りは焼け野原になりました。

戦後、米軍の指定工場に

戦後は食糧難で、食料を譲ってもらえる田舎がない家は苦勞難いものです。苦しい時代でしたが、みんな復興をめざして一生懸命でした。戦後から約2年たった昭和22年(1947)には当社も工場を再建することができ、厨房設備機器の製造に力を注ぎました。

この近くに米兵の集まるビアホールがあったこと、社員の中に英語の話せる人がいたことなどの幸運にも恵まれ、当社の技術や製品が米軍の目にとまることになりました。昭和25年(1950)、当社の製品が駐留軍に認められ、大船にあった米軍の購買局の指定工場となりました。そこから厨房設備機器の注文をたくさんいただき、大忙しの毎日でした。その後、米軍からは感謝状もいただきました。

一般家庭の厨房器具も製造していましたが、この辺

りは、芝家具屋さんがたくさんありましたので、その家具(流し台やテーブルなど)にステンレスをはり、ステンレス家具としても喜ばれていました。当時、水を入れて冷やす木製の冷蔵庫がありましたが、その内側にステンレスをはって販売を始めたところ、ニーズに合ったのでしょうか、飛ぶように売れたものでした。



米軍の注文を受けて生産した三槽シンク120台を新橋の戦災跡地に並べました(昭和25年)

厨房設計・施工に尽力

その後も厨房設備にこだわって、研究・開発を重ねていきました。今ではホテルやレストランでよく見られるステンレス厨房設備ですが、その先駆けとして昭和30年代、多くの有名なホテルやレストランの注文を受け、施工を行ってきました。

昭和43年(1968)には皇居新宮殿造営の際、配膳室の工事をさせていただきました。今でもよい思い出です。平成15年(2003)黄綬褒章をいただいた際、約30年ぶりにその配膳室を見せていただき、懐かしさで感慨深かったです。



施工したホテルのステンレス厨房設備(昭和38年)

戦後は、何もなくなってしまった焼け野原の中から、みんな復興に向けて助け合いながらがんばっていました。活気もあつた気がします。私は、生まれ育った新橋で、戦後たくさんの仕事をいただくことができ、今も同じ場所で働き続けられていることをうれしく思っています。

Info 株式会社 村幸 新橋4-6-8 TEL 03-5777-0011

芝活人

さまざまな分野で活躍されている
芝地区の皆さんをご紹介します

今だからこそ、心と心のつながりを大切に



直江さんご夫妻。手前におられるのが、重さんが作った巣箱。使う貝殻1つ1つの大きさまでこだわった精巧な細工は一見の価値ありです

学生時代から手作り料理をふるまうのが大好きだった直江重さんが、妻道子さんと一緒に虎ノ門3丁目「カフェ・ド・ノエル」を開いて、今年で11年目。心と心のつながりを大切にしてきたお二人は、今回の東日本大震災においても、募金活動や物資の支援などたくさんの活動をされています。そんな直江さんご夫妻にお話を伺いました。

学生時代の友人だったお二人。重さんは広告代理店に勤務し、道子さんはまだスタイリストという呼び名がない時代に、第一線でCM制作などに携わり、それぞれ多忙な日々を過ごしていました。卒業後十数年たった12月24日、偶然お二人は再会を果たし、その後結婚されました。「カフェ・ド・ノエル」という店名は、その再会した日にちなんで付けられたそうです。結婚後は、木曾に畑付の家を借り、週末は仲間達を招いて時間を過ごす生活を20年にわたって続けました。

お二人は、木曾の山での生活は大自然との心の対話の時間だったといいます。大自然との共生、心と心のつながりと対話の大切さを学んだそうです。「カフェ・ド・ノエル」でも、お二人の人物と木曾での

生活で得られたものをたくさん感じることができます。2階にあるお店に向かう階段には、手作りの木の看板と鳥の巣箱が目を引きまわります。お店にもたくさんの素敵な木の巣箱が飾られていますが、それら巣箱は木曾での生活の中で、重さんが細やかな細工を施しながら作り続けたもので、実際に多くの小鳥たちが巣立っていったそうです。道子さんは、まだ女性の活躍の場が少なかった時

代に、CM制作現場を取り仕切るほどのたいへんな力強さを持つ女性である一方、心で考えて対話することを常に心掛けてこられた繊細な感性の持ち主でもあります。そんな道子さんは、ご家族の介護や今回の震災に対する支援などに心を割かれる中、失われかけた心と心のつながりと、対話することによる皮膚感覚の大切さをますます実感したそうです。そして、大自然の脅威に対しては心で見つめて感じて寄り添うことを、木曾の山の生活から学んだそうです。

対話を大事にする温かなお二人の人物と縁から、お店のイベントも国籍やジャンルを問わない、みんなが楽しめるものになっています。道子さんのウクレレ演奏をはじめ、絵本作りやライブなどの心温まるイベントによって、さらに新たな輪が広がる場所、それがお二人のお店です。

未曾有の天変地異がもたらしたものは、多くの悲しみだけではなく、忘れていた人と人とのつながりのあり方や、それをつなぐのは心であるということを一たび思い出すチャンスでもあるのでは。被災者をいたわり、心のつながりを大切に活動してきたお二人が作る、心と体が喜びボリュームたっぷりの優しいメニューは、ふわふわの小鳥の巣の中にいるような温かな気分させてくれる、そんな心遣いを感じました。

(文・写真 ■ 天津 由理香)

Info カフェ・ド・ノエル
虎ノ門3-13-13 2F
TEL 03-3437-9235

ココロとカラダにおもてなし！夏レシピ

食の人気素材、ナチュラルチーズ。今では、家庭の食卓でも、パスタやサラダなどで、よく頂きます。今回は、新鮮なチーズを使用したメニューを、夏向けにアレンジして、気分も身体もリフレッシュ！美味しい夏レシピを、2つご紹介します！
チーズ専門店 フェルミエ愛宕店 店長で、チーズのプロフェッショナルの国際コンクールで世界第2位を受賞した村瀬 美幸さんに、ご提供していただきました。

(文・写真 ■ 桑原 麻嘉子)

バスケット風味のカマンベール



オリジナルレシピでは、容器としてクロッシュ・ア・カマンベール(ふた付きの陶器)を使用しています。

【材料】(4人分)
カマンベールチーズ 1/2個
じゃがいも 中2個
★赤パプリカ(バスケット風味) 30g
塩・こしょう 少々

【作り方】

- 1 水平にカットしたカマンベールチーズ1/2個を陶器にセットする。
- 2 皮をむきゆでたじゃがいもを一口大に切り、塩・こしょうをして①にのせ、赤パプリカバスケット風味をのせる。
- 3 ふたをして、電子レンジで1分半〜2分加熱する。全体がとろ〜りしたら出来上がり。

じゃがいもととろ〜り溶けたカマンベールチーズの相性は絶妙です。

★「赤パプリカバスケット風味」の材料と作り方★

【材料】(4人分)
赤パプリカ 1個
ベーコン 2枚
エシャロット 2かけ
にんにく 1/2かけ
ピメント・デスベレット® の粉 少々
オリーブオイル 適量
ローリエ 1枚
塩・こしょう 少々
※ピメント・デスベレット®はバスケット風味の赤唐辛子

【作り方】
① 赤パプリカは半分に切り、種をとって3cmほどの棒状にカットする。
② ベーコンは粗みじん、エシャロットとにんにくはみじん切りにしておく。
③ 鍋にオリーブオイルを入れ、にんにく、エシャロット、ベーコンを炒め、赤パプリカを入れ、塩・こしょう、ピメント・デスベレットの粉、ローリエを入れ約15分炒め煮し、冷ましておく。



愛宕山の自然に包まれ、店内は自然光を探り入れ木目調をあしらった遊び心溢れる空間が広がります。各国、さまざまな種類のチーズを取りそろえられ、食べる楽しみに加え、食の異文化にも触れることもできます。



店内の一面では、ガラス越しに大きなチーズたちが並び、熟成室が見られます。チーズは、男性スタッフが丁寧に磨きあげます。

Info フェルミエ愛宕店
愛宕 1-5-3 愛宕ASビル1F
TEL 03-5576-7720

水牛モッツァレラのバルサミコ酢和え

【材料】(4人分)
水牛モッツァレラチーズ* 16個(サクランボ大)
クルミ 4〜5粒
バルサミコ酢 大さじ3
砂糖 ひとつまみ
塩・黒こしょう 適宜
エクストラバージン・オリーブオイル 大さじ2



(写真提供:フェルミエ)

【作り方】

- 1 モッツァレラチーズは軽く水気を切っておく。
- 2 クルミはトースターで3分ほど焼き、砕いておく。
- 3 ボウルにバルサミコ酢、砂糖、塩・黒こしょうを入れて混ぜ合わせる。
- 4 ③にモッツァレラチーズ、クルミを加え、軽く混ぜ合わせる。
- 5 お皿に盛り、上からオリーブオイルをまわしかけて出来上がり。

とてもシンプルながらも、バルサミコ酢の甘酸っぱさがモッツァレラチーズのミルクinessを引き立てます。使用するバルサミコ酢の濃度が濃い時は量を控えめに。野菜を加えてサラダにもアレンジできます。夏の暑い日にもおすすめの一品です。水牛乳製モッツァレラチーズの代わりに牛乳製モッツァレラチーズでも美味しく召し上がれます。

リンドウの育て方



今回は、これからの季節にきれいな紫の花を咲かせるリンドウの育て方です。きれいに咲いているリンドウを見ていると秋の訪れを感じて心が癒されます。みなさんも栽培のポイントをしっかりおさえて、きれいな花が咲くように挑戦してみましょう！

リンドウは自生種ですが、近年は園芸用に品種改良された用途に応じた苗が販売されているので、目的に合った品種を選びましょう。品種改良された園芸種は丈夫で育てやすいですが、細やかな気配りを忘れないようにしましょう。

用意するもの

- 苗 ……葉に傷みがなく、茎が太いものを選ぶ。
- 鉢 ……通気性と水はけの良いものを選ぶ。
- 用土 ……野草用の培養土が良い。

→ 用土を鉢に入れ、苗を植え替えます。たっぷり水をあげましょう。

栽培のポイント

- 1 日当たりが良く、風通しの良い場所で栽培する。日が当たらないと花を咲かせず(葉焼けには十分注意する)。
- 2 乾燥しないように、1日1回たっぷり水やりする。直接つぼみや花に水をかけると花が傷みやすくなります(根腐れには十分注意する)。
- 3 肥料が不足すると葉が変色するので、月2回程度適量を与える。
- 4 病気や害虫に注意して、害虫がついてしまったら取り除く。

リンドウは涼やかな気候で日当たりの良い環境を好みます。日差しが強すぎる場合は明るい陰に移動させましょう。

芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご活用ください。

1 大門 1P
2 芝大神宮 1P
3 紀伊国屋とうふ店 1P
4 日本赤十字社 本社 2P
5 ライオン 新橋店 2P
6 JRF新橋駅 3P
7 若松屋 東京港醸造 3P

8 芝公園
9 芝公園駅
10 芝公園駅
11 芝公園駅
12 芝公園駅
13 芝公園駅
14 芝公園駅
15 芝公園駅

16 芝公園駅
17 芝公園駅
18 芝公園駅
19 芝公園駅
20 芝公園駅

21 芝公園駅
22 芝公園駅
23 芝公園駅
24 芝公園駅
25 芝公園駅

26 芝公園駅
27 芝公園駅
28 芝公園駅
29 芝公園駅
30 芝公園駅

31 芝公園駅
32 芝公園駅
33 芝公園駅
34 芝公園駅
35 芝公園駅

36 芝公園駅
37 芝公園駅
38 芝公園駅
39 芝公園駅
40 芝公園駅

新橋児童館の子どもたちが史跡ツアーに行ってきました!

6月29日、新橋児童館では、本誌19号4ページに掲載された『芝地区～お江ゆかりのスポットを歩こう～』の記事を参考に、今年度からの新たな取り組みである「史跡ツアー」を行いました。第1回目のコースは、増上寺、芝東照宮、御成門でした。

子どもたちはしおりを持って、ツアーに出発。しおりには史跡についてのクイズや豆知識が書かれていて、子どもたちが楽しんで学べる内容になっています。

増上寺では、徳川将軍家霊廟内の歴代将軍や妻などのお墓を見学しました。また、芝東照宮の樹齢350年を超えるイチヨウの巨木や、「御成門」の場所・名称の由来など、見慣れたまちの中での新たな発見に、子どもたちは目を輝かせていました。

(なお、本誌19号は港区ポータルサイトのトップページ>総合支所のページ>芝地区総合支所>芝地区の地域情報誌のページでもPDFでご覧いただけます)



新橋児童館
新橋6-4-2
TEL 03-3433-4005



これから徳川将軍家霊廟内に入ります!
※11月30日まで毎日公開されています
(撮影協力:増上寺)

小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ

国際協力について学びませんか? 第6期・受講生募集

「JHP・学校をつくる会」(代表 小山内美江子)では、国際協力団体としてカンボジアでの学校建設・教育支援、ボランティア派遣などの活動をし、その知識を活かして2006年から国際ボランティア・カレッジを開講しています。国際協力や多文化理解に役立つ講座、カンボジアでの現地研修など、学びと体験の場を提供しています。現在、第6期生を募集しています。

【日程】2011年9月10日～2012年3月24日

【参加要件】18歳以上

【定員】35名

【開催場所】読売理工学院ビル内教室

【主催団体】JHP・学校をつくる会

※費用や講義スケジュール等はホームページまたは事務局までお問い合わせください。

◎聴講生を随時募集しています。(1講義から受講可)

●問い合わせ先

特定非営利活動法人(認定NPO法人)JHP・学校をつくる会
小山内美江子 国際ボランティア・カレッジ事務局(担当:鳥居、田中)
〒108-0014 東京都港区芝5-26-16 読売理工学院ビル6F
TEL:03-6435-0812 / FAX:03-6435-0813
E-Mail: college@jhp.or.jp
URL: http://www.jhp.or.jp/college/index.html

東日本大震災 被災地支援レポート

福島県いわき市への支援

JR新橋駅前にあるニュー新橋ビルに、平成6年(1994)から今年の3月まで、福島県いわき市のアンテナショップがありました。いわき市とは、このアンテナショップのオープンを契機に、みなと区民まつりや新橋こいち祭への出店、交流事業などを通して関係を深めていたことから、平成20年(2008)、港区はニュー新橋ビル商店連合会(会長 長尾武次)とともにいわき市と協定を締結し、「商店街友好都市」の関係になりました。



震災後港区ではいわき市の要請を受けて、3月24日から4月28日まで、6月19日から9月30日(予定)までいわき市へ区の職員を派遣しています。職員は、1週間交替で被災家屋の罹災証明の発行と現地調査の補助などの業務を行い、被災地の支援にあたっています。

被災地の支援にあたっています。

ニュー新橋ビル商店連合会でも、これまで2回商店会で集まった義援金をいわき市に送りました。

●現地での活動報告より

支援物資の集積所となっていた平競輪場、自衛隊やボランティアの人たちと物資の搬入・搬出や仕分けをしました。罹災証明は申請件数も多く、一つ一つ現地調査をして発行するまで、かなりの時間を要します。慣れない地名にも苦労しました。現地調査の際は、被災者の方々とのお話も大事にしました。微力ながらの応援でした。

第6回ふれ愛まつりだ、芝地区!

東日本大震災復興支援～つなげよう希望・ひろげよう絆～が開催されました

6月4日、区立芝公園で、「東日本大震災の被災地復興支援」地域のふれあい・環境・平和」をテーマに、「第6回ふれ愛まつりだ、芝地区!」を開催しました。



(写真:町田明夫)

当日は、例年より半月も早い梅雨入り後にもかかわらず天候に恵まれ、まつりの熱気が会場を包みました。

会場を訪れた人の数はおよそ4,700人。出店会場の「地域ふれ愛マーケット」では、地域の団体が趣向を凝らした模擬店を出店し、どのブースも大にぎわいでした。

環境にやさしい太陽光発電を備えたトラックステージでは、2部構成のコンサートが行われ、第1部「地域ふれ愛コンサート」では、地域の人々による歌や踊り、バンド演奏などが披露されました。

第2部「ジ・アース&ピースコンサート」では、平和への願いを込めて佐々木祐滋さんとサンブラザ中野くんによるコンサートでステージが盛り上がりました。

来場者の皆さんが書いてくれた被災者へのメッセージを被災地に届けたり、各ブースで義援金をお願いしたり、みんなで被災地の復興を願いました。

集まった義援金79,306円は、日本赤十字社を通じて被災地に届けられます。ありがとうございました。

都税についてのお知らせ

災害等により被害を受けた方には都税を減免する制度があります

風水害や地震、火災などで甚大な被害を受けた方には、一度課税された税金のうち、まだ納期限が到来していない税金を、被災の程度等によって軽減または免除する制度があります。



主税局イメージキャラクター タックス・タクちゃん

【減免する場合】

床上浸水、崖崩れ、家屋損壊等の被害を受けた場合

【減免の対象となる都税】

固定資産税・都市計画税(23区内)、不動産取得税、個人事業税など

【減免を受けるための手続き】

減免を受けるためには、納期限までに、納税者ご本人からの申請が必要です。被災された方は、「罹災証明書」など、被災の事実を証明する書類を添えて、都税事務所で申請してください。

また、被災により、都税を一度に納めることができない場合には、納税を猶予する制度があります。なお、納税の猶予を受ける場合にも、申請が必要となります。詳しくは、都税事務所までお問い合わせください。

●問い合わせ先●
港都税事務所
TEL 03-5549-3800(代)

防災は 備えと意識と 助け合い

防災週間
8月30日(火)から
9月5日(日)

救急週間
9月4日(日)から
9月10日(土)



自分自身と大切な家族を守るため、
家具類の転倒・落下防止をしておきましょう!!

芝消防署
TEL 03-3431-0119 FAX 03-3433-1920

「みなとコール」は暮らしの疑問にお答えします!



区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。

年中無休 / 午前7時～午後11時

ゴヨウ(は)ナニニ ミナト(コール)ズ

TEL 03-5472-3710

FAX 03-5777-8752

Eメール: info@minato.call-center.jp

英語での対応もいたします。

警視庁犯罪被害者ホットライン

被害者や家族の相談窓口です。

迷わずに勇気を出して
相談してください

匿名でもOK

秘密厳守

お気軽に

TEL 03-3597-7830

FAX 03-3592-6840



愛宕警察署

芝地区地域情報誌・編集委員を募集しています!



芝地区の話題を
発掘し、取材していただく
地域情報誌・編集委員(記者)
を募集します

- 【対象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人
- 【内容】地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年間4回発行予定)。発行予定ごとに平日の昼夜間に2時間程度の取材と、平日夜間に1回程度編集会議への参加があります。
- 【申し込み】氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、FAXまたは郵送でお申し込みください。
- 【その他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
天津由理香 / 伊藤泰子 / 金田明美 / 菊池弓可 / 清田和美 / 桑原庸嘉子 / 小知和千佳子 / 作田宗子 / 佐藤剛志 / 柴崎郁子 / 柴崎賢一 / 千葉みな子 / 張簡光輝 / 日尾佳世 / 町田明夫 / 森明

★今後の発行スケジュールは次の通りです。
H23.11.20発行(第21号)、H24.2.20発行(第22号)、H24.5.20発行(第23号)、H24.8.20発行(第24号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

港区芝地区総合支所協働推進課

所在地: 〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)
TEL: 03-3578-3193 FAX: 03-3578-3180
ホームページ: http://www.city.minato.tokyo.jp/sisyo/siba/